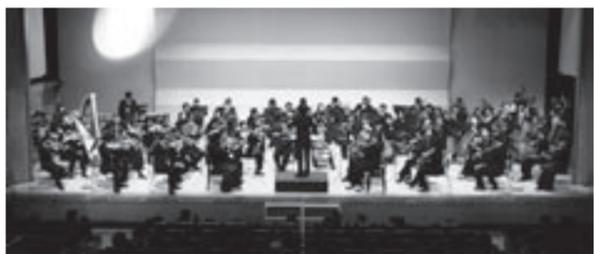




第62回鈴木三重吉賞 優秀賞受賞

中国新聞社が主催する第62回鈴木三重吉賞作文の部で、二幸小学校6年生の川上光さんが優秀賞を受賞されました。受賞作品の「こんな自分が大好き」は、1年生の頃から体育が苦手でも不器用、さらに給食をよく残り悔しい思いをしてきた自分が、6年経って努力をすることで、自分に自信が持てるようになったという内容です。「まさか、優秀賞になるとは思っていなかったのですが、びっくりしました。嬉しいです」と受賞の喜びを話していました。

オーケストラを全身で体感 広島交響楽団クラシック音楽鑑賞会
 1月22日(金)さんわ総合センターで、「広島交響楽団クラシック音楽鑑賞会」が開催されました。この鑑賞会は芸術文化に触れることを目的とし、文化庁・広島県の事業で実現しました。当日は、三和地区4つの小学校の児童を中心に、ホールはほぼ満席の観客で埋め尽くされ、中・四国唯一の常設プロオーケストラである広島交響楽団の迫力ある演奏に会場内は魅了されました。指揮者体験コーナーで指揮者を体験した若林直希君(高小6年)は、「自分の指揮に合わせて演奏がはじまり、気持ちシャキッとした。楽しかった」と話していました。



卒業制作を仙養ヶ原に



油木中学校

仙養ヶ原まきばの夢工房の前に、油木・豊松中学校3年生の卒業制作が完成しました。今年で5回目となる思い出の作品展示場設置事業は、卒業生の色々な思いが詰まっています。油木中学校の作品は「We Love yuki」と題し、校歌の歌詞が刻まれています。また豊松中学校は「翔」と題し、牛と紙ヒコーキで自分たちの住む町を表現されています。生徒達のふるさとを想う作品を、ぜひご覧ください。



豊松中学校

三和公民館まつり開催

1月17日(日)、実行委員会による第6回三和公民館まつりが開催されました。オープニングはコールさんわによる女性コーラスのさわやかな歌声で始まり、こばたけ保育所の鼓笛、三和小学校のよさこいソラン、三和中学校の合唱、そして民謡、舞踊など各サークルの日頃の練習成果を十分発揮されていました。また、今年度は、三和公民館子ども和太鼓教室の初参加があり、会場から多くの声援を受けていました。心配されていた、新型インフルエンザの影響もなく、27の演目で171名の方々による発表により、盛大な公民館まつりとなりました。



町立病院からのお知らせ

「薬の正しい使い方について」

町立病院健康学習会「まめくらぶ」

1月27日(水)、町立病院会議室で「薬の正しい使い方について」の健康学習会を開催し、30名の方の参加がありました。

学習会では、有木薬剤科長から身近な薬も誤った使い方をすると、病気やケガが治らないどころか、逆に悪くなったりすることもあるので、薬を服用する時の注意点や7つの約束などについて話がありました。

薬を飲み忘れたときはいつ服用すればいいの？飲み忘れをしない方法は？副作用が出たらどうすればいいの？といったことについて、クイズ形式で参加者の皆さんから体験談や質問を頂きながら、一緒に正しい薬の使い方を学習しました。



(講師：有木智彦薬剤科長)

薬を服用する時の7つの約束

- ①毎日決められた時間に服用します。
- ②決められた服用量を守ります。
- ③病気の症状が治まっても、完全に治ったとは限らないので、決められた日数服用し続けます。
- ④他の人からもらって服用したりしません。
- ⑤他の人に自分の薬をあげたりしません。
- ⑥前の病気の時にもらった薬は使いません。
- ⑦薬はいつもきちんと整理して保管します。



今月の部署紹介 (毎月いろいろな部署をご紹介します)

2病棟 ☆リニューアルしました☆

2病棟看護師長 石本 京子



(2病棟職員)

町立病院になって11カ月が過ぎようとしています。2病棟は2階の一般病棟で、看護師とは別に新たに看護助手5人を配置し、日常生活を援助させていただいています。看護師は15人で3交替勤務をしており、夜間は2名で部屋の巡室をしています。今まではナースコールの対応が遅れたりする場合がありますが、このたびのナースコール改修工事で職員は院内用 PHS を持ち歩き、素早く対応できるようになりました。この院内用 PHS (赤色の紐が付いています) は一般の携帯電話とは違い各階にあるさまざまな医療器具に悪影響を及ぼす心配はありません。PHS の他にトイレとお風呂も新しくなりました。改修されたトイレは洋式のみとなり、水が自動で流れるので流し忘れがありません。車椅子でも出入りできるようになりました。風呂場も浴槽は以前より浅くして入りやすくなっています。



また病棟リニューアルと共に、私たちスタッフの気持ちもリニューアルしています。入院した事での不安やしんどさを私たちが五感を働かせ理解できるよう、また退院に向け回復できるよう援助させていただきます。

もし何か分からない事がありましたら遠慮せずいつでも職員に声をおかけください。